

第8回 (仮称)岩槻人形会館開設準備委員会 議事録

- 1 日 時 平成24年7月18日(水) 10:00~11:40
- 2 会 場 大宮区役所大会議室1・2
- 3 出席者 【委員】林委員長、是澤副委員長、大越委員、
村上委員、田島委員、戸塚委員、井藤委員、花野井委員
【事務局】市民・スポーツ文化局 和田局長
スポーツ文化部 野間部長、服部次長、桑原参与
文化施設建設準備室 鈴木室長、川田主査、内田主任
菅原学芸員、平井学芸員
- 4 次 第
 - (1)開 会
 - (2)局長あいさつ
 - (3)報告
進捗状況について
 - (4)議 題
資料調査等について
支援組織づくりについて
 - (5)その他
 - (6)閉 会

配布資料

書類番号1 1、1 2 資料整理状況について

書類番号2 1、2 2 (仮称)岩槻人形会館の支援組織づくりについて

5 報告事項について

事務局より下記の報告が行われる。

- ・新たに岩槻区長に就任された花野井区長が新井委員にかわり、委員に就任した。
- ・4月1日の人事異動により、和田局長が就任した。
- ・昨年12月に地元団体より(仮称)岩槻人形会館の建設について要望が提出され、そ

の内容を踏まえた検討を2ケ年ほどで行い、施設の着工に入ると市長が議会で答弁を行った。

- ・これらを受けて、1月31日に第1回目となる地元との協議をはじめ、続いて5月14日の都合2度にわたり、歴史・文化的機能の付加について意見交換を行った。今後も協議を重ね、地元との合意形成に向けて努力していく。
- ・ハード面では、必要に応じて設計の変更作業などに鋭意取り組みたい。
- ・その間も、ソフト事業として人形の修復など、開館に向けての事業を進めていく。
- ・まちづくりについては、7月1日から7月末日をめぐり、岩槻地区からのパブリックコメントを募集している。

これらの報告を受けて、委員長より意見が述べられる。

委員長：事務局から、地元の要望を踏まえた上で対応について説明して頂いたが、これについて確認したい事や質問はありますか。(特になし)。何度かこの話を承っているが、平成21年度よりこの委員会を開催しています。途中からこのような要望が出ることについては、いささかつらい感じです。特に展示の内容として、歴史を取り上げる事には対応できないのではと考えています。今まで検討してきた基本コンセプトは委員会としては変更しないという事で判断していきたい。あと2年、開館が延びたという事で、事務局や委員会の意識も緩むのではと危惧します。適切かつ速やかな事業の進展について協力していきたい。

6 議題について

(1) 資料調査等について

委員長：資料調査について、事務局より説明願います。

事務局：(資料調査等について説明を行う)

委員長：資料調査について報告がありました。収蔵品等の調査について専門的な立場から指導を頂いているA委員より補足説明があればお願いします。

A委員：今の説明でお分かりかと思いますが、収蔵品がやはり第1級の資料であると思いました。雛祭りの時期に開催される人形の展示と比較して、どこにもないレベルの資料といえます。修復状況の中で説明があったように、誰が修復したかなどを明確にしていきます。後年改めて修復が可能なように、文化財の修復方

法に則った修復を進めます。日本を代表するコレクションとして、今後どのように伝えていくかという事に取り組んでいる作業だと思います。

委員長：市民に対しての予告展についての説明がありましたが、(仮称)岩槻人形会館のメインになる西澤コレクションは素晴らしいと再認識しました。できるだけ早く公開できるようにするのが、委員会の役割と思います。

A委員より、文化財的なメソッドに基づく修復について説明がありましたが、今回のプラザノースの展示で、博物館として事業を続けていくためには、このコレクションだけではなく、さらなる収蔵資料が必要になると思います。開館までに時間がかかっていますが、その中でさらなるコレクションの充実が必要かと思います。

岩槻でも予告展をはじめ、写真を使った展示ではあるが、市民に公開しました。(仮称)岩槻人形会館の内容についても紹介しました。ただ、岩槻には展示公開施設としての設備が整っていません。本来、コレクションの魅力を伝えるために実物資料を展示したいのですが、これは今後の課題です。地元と連携しながら、また支援組織を使ってコレクションを紹介する機会を作りたいと思います。委員会にも支援して頂き、人形組合の支援も頂きたい。

F委員：質問ですが、住民から引き取った資料は、どれぐらいの数ですか。またもう一点あります。プラザノースのギャラリーでの展示は素晴らしかったです。人形を展示するには条件があるとありましたが、もっと資料を露出させて、今後はパネルでの展示ではなく、プラザノースでの展示のような展示の予定はありますか。

事務局：住民から引き取った人形は、3軒から頂いたものです。市内2軒と、市外の1軒からで、数が多いのでここで正確な点数をお答えすることができません。

委員長：おおよそで良いのですが。

事務局：50～60点かと思います。それぞれリストを作成しています。

委員長：私も確認の途中で見ましたが、時代的には新しい人形かと思います。

事務局：明治30年代の人形、大正、昭和の人形となっています。

委員長：もう一つの質問である、今後のコレクションの紹介の予定はありますか。

事務局：今年度も雛祭りの時期にうらわ美術館で企画展を開催する予定です。

委員長：広く（仮称）岩槻人形会館の活動や設置の目的、展示内容を市民の方々に知ってもらうために、大宮区域で展示し、岩槻で展示し、あとは浦和で展示といった方向で展開しているのですね。

E委員：プラザノースでの展示は素晴らしかった。来年、岩槻まちかど雛めぐりは、十回目となります。毎年7～8万人の集客があります。この西澤コレクションがその時に展示されたら、どれくらい盛り上がるか。また区民も理解してくれるのではないですか。岩槻には展示設備がないという事ですが、パネル展示でも良いので、西澤コレクションを説明してもらって、例えば郷土資料館の展示のボリュームを膨らませてもらって、岩槻まちかど雛めぐりの期間中に展示をしてもらえれば良いのですが。またうらわ美術館の開催もお願いしたい。

委員長：今の要望にもある、岩槻まちかど雛めぐりでのイベントの実施などについて、事務局の考え方はどうですか。

事務局：支援組織についての資料の、2/2にスケジュールが入っています。岩槻まちかど雛めぐりでパネル展を実施したいと考えています。また、うらわ美術館での展示は、2月21日から3月21日の日程となっています。これは設営と撤去の時間も含めての日程で、今後の準備の中で会期が定まります。昨年度と同じように展示を行います。岩槻まちかど雛めぐりとは、若干期間がずれますが、同じ時期に行っていきたいと思います。

委員長：岩槻での展示についてはいろいろな制約があると思いますが、事務局の方でも何らかの方策を考えながら進めてください。

（2）支援組織づくりについて

委員長：それでは次の議題ですが、支援組織づくりについて事務局から説明願います。

事務局：(支援組織づくりについて説明を行う)

委員長：この準備委員会の開催には間が空いてしまいましたが、いろいろな活動が行われていました。支援組織づくりについて、C委員から補足説明を願います。

C委員：支援組織の当初の目的は、(仮称)岩槻人形会館が開館した時に、友の会となるようなものを作ろうというものでした。開館が伸びた事により、岩槻での人形文化の醸成が会の目的になってきました。PRが大きな話題です。市議会で議論があり、開館時期が遅れるとなりましたが、岩槻の歴史・文化の導入や、街づくりの総合的な関係の中での検討が求められています。先日、岩槻の歴史に関心のある人から私のところにも連絡がありました。お城に関わる研究や活動をしていて、普及したいとありました。その場所として(仮称)岩槻人形会館はどうかというほど、せっぱつまっている様子でした。おそらく、区の対応について意見があるようで、議会から意見が出たのも、そのような熱心な方々が、お城をテーマに活動できる場所を求めた事によるのかもしれませんが、埼玉県が誇る3つの城があります。川越城、忍城、岩槻城です。地元が歴史について強い関心を持つのも当たり前かと思えます。しかしその考えが(仮称)岩槻人形会館とつながるかという、そうではないと思えます。私は会があって、仲間が形成されることが大切という風に言ったら、そうですねと答えられました。また、それは教育委員会やNPOの活動で考えたらどうか、例えば城を商品化したらどうかと伝えました。川越城や姫路城など、観光資源となっている城があります。こういった観光化は局にもかかわるのではと伝えました。連絡して頂いた方の状況は理解できるので頑張ってくださいと伝えました。

アンケートの結果でも、岩槻の人々は、お城、城跡、人形文化に大きな関心を持っています。私個人の考えでは農業もあるかと思えますが、専門である観光という立場で言えば、お城というのは違うと思えます。むしろ市民の暮らしている城下町のイメージを前面に出し、市民の生活という切り口で紹介したらと思えます。お城というと、もっと学術的な事になるでしょう。または政治的に城下町サミットを開催するという事も考えられます。

今回、報告書を作成しましたが、この内容を公開していけば、全国のまちから欲しいといわれるのではと思えます。当初この組織を立ち上げた時には、産業と市民との間に若干の確執があり、それを乗り越えて市民にとって人形が大切と理解することができたら良いかと考えました。都市の近郊に住み、節句とつ

ながったくらしをどう取り戻していくかと、伝統的な雛人形を活動の中心にしていきたいと思っています。例えば和菓子やお祭りを取り上げた勉強会があるのはそのような意味です。

プラザノースの展示では、約1,500名の来館者があったという事ですが、結果北区でアピールできました。市全体としての人形会館として、岩槻の文化を守る事が大切です。政令指定都市として、他の区で展示会をやったことが重要です。来館者の半分以上は他の区から来た人で、南の端から来た人もいました。展示物を中心にして市民のグループがあるというフレームは支持されていないのではないですか。

委員会でも誤解されることがありますが、これは市民施設で、観光施設ではありません。年間7万人という試算がありますが、それだけ来れば前の道路も渋滞するし、トイレはどうするかなど色々な問題もあるでしょう。まずは市民施設として人形会館はあるべきで、年間標準化して来館者数を考える施設ではないと思います。市民生活施設としての会館をどうマネジメントするかです。市民と人形、人形が生活を育成すると。どうやって人の輪が広がり、サポーターが人の輪を広げていけるか。勉強会で鴻巣に視察に行った際には小さなマイクロバスで移動しましたが、その次の栃木の視察の時には参加者が増えて大型バスで移動しました。今は高齢の方々にこの活動を広げていますが、もっと若い、子供のいるの方々の参加などを考えています。我々が美の世界にどのように近づいていくのか、サポーター準備会は人形会館の機能を越えていくものになり、その一部を人形会館が担うとなるでしょう。サポーターズの活動を学芸員が面倒をみるのではなく、よりどころ、拠点としての会館になっていくでしょう。

委員長：ありがとうございました。今、第一に歴史的なスタンス、次に市民施設という考え方について説明がありました。それを踏まえて支援組織についてご質問や確認、また意見があればどうぞ。

(仮称)岩槻人形会館戦略形成チーム準備会を進めることで、人形文化について市民への情報提供や発信を行ってもらっています。施設と支援組織づくりが並行して進むことはあまり例がない事なので評価したいと思います。下地づくりがあって、開館に向けての万全な準備が行われています。地元であるG委員から、抱負などがあればお願いします。

G委員：私はしばらく岩槻から離れていたのですが、活動については話を伺っていました。これまでの岩槻にはない流れを作っていただいた事に感謝したいと思います。岩槻の市民性として、よそのものを受け入れにくいという感じがあります。今回のメンバーでは地元の方も活動して頂き、その中の議論で問題点や課題も出てきています。これまで区役所は、活動の場を提供してきただけでした。埼玉県内に向けて、また全国に向けて人形文化を発信していきたいと皆さんは考えられています。区としてはできる限りサポートさせて頂き、「オールさいたま」として、微力ですが頑張りたいと思います。

委員長：これからの支援づくりに、行政のサポートが頂けると承ったと思います。ある意味、長期間にわたって進めてきた事から、さまざまな住民の方の文化活動への要望や希望が出てきたと思います。さいたま市にとってのトータルなビジョンと合わせて、どのような形で文化施設として位置づけ、相互的な連携をとっていくか、さまざまな検討が必要ですね。この委員会は設立準備委員会として、基本コンセプトを持って検討を行っています。アンケートを見ると住民の人形に対する関心が高い事がわかります。今まで進めてきている内容とも合致するのではと確認することができました。

D委員：私のゼミでは、別の観点から（仮称）岩槻人形会館や人形文化を伝えることについて調べました。これはひとつの地域のシンボルになっていく施設です。そのような施設を作る時に、市民などからはさいたま市の施設と捉えられるので、市民が施設に求めているものがあるのか、また施設に関心を持ってもらえないと仕方がないので、せっかくそういうものを作るのであれば、アクセスしやすいとか、城跡公園と連携しやすいといった事も必要です。文化施設としての核となるところは、市民生活の中にあるものへ、どう歩み寄っていくかが大切ではないかと思います。市の方々を巻き込んでいく中で、何を鍵にしていけば、文化的な側面で市民に親しんで頂けるかという、設置者と市民の両方が相乗効果を持つことができることを考える必要があります。施設だけでなくまちづくりも含めて考える必要があるので、市の部局どうしの連携もして頂きたいと思います。市民から見ると一体のものです。そこに摩擦が残ると本質的な価値を表すことができません。

委員長：市民の施設という事を十分に認識して、進めていくという事ですね。事務局の

方が現在考えている基本的な考えはどうか。

事務局：昨年、市長の考えで庁内にプロジェクトチームを立ち上げました。観光経済室などにも参加してもらい、事業推進のためのアクションプランを昨年度作成しました。アクションプランの大きな柱の一つは、開館に向けてのハード面、例えばサイン板の設置などがあります。盆栽美術館の例があるので、駅から施設までの安全通路として、駅からの回遊ルートの安全性を確保します。遷喬館、時の鐘などを回遊するなど何パターンかの回遊ルートを想定し、サインを設置することが必要かと考えています。またグリーンベルトの設置を道路環境部門で考えています。開館までの整備と、開館後の整備について検討しています。一過性のものではなく、そういうプランを作成し、所管毎に事業を計画的に織り込んでもらうよう、同じ認識をもって進められるように考えています。今年各論的なものとして、サインの設置場所などについて検討する第1回目の会議を開催するところです。

委員長：有効に進めていただきたいと思います。

(3) その他

委員長：続いて、資料5、D委員から報告書がでていきますので説明をお願いします。

D委員：大学のゼミで、2011年度に岩槻を題材に調査をしました。第4章ではアグレッシブな提案をいくつか行っています。例えば小中学校でのアンケートの結果から、在校中に必ず人形づくりの体験をした方が良いという提案をしています。それが人形文化を育成するためのきっかけになるとしています。

委員長：資料については改めて目を通しておいて欲しいと思います。ご質問等がある場合は次の委員会にでもお願いします。これで議事は全て終了ですが、他にありますか。

委員長：資料調査でさらに確認したいことがあります。資料整理が進んでいますが、支援組織づくりのスケジュールにもあるように企画展なども計画されており、事務局の人員は足りているのですか。

事務局：定期的に資料整理を行っていますが、企画展も同時並行で進めているので、資料整理が思ったように進んでいないのが現状です。また整理で作られたデータは、今後データベース化していく必要がありますが、そこまで手が回らないと思います。例えばアルバイトなど補助してくれる方が必要ではと考えています。

委員長：人員不足という事ですね。臨時にアルバイトを雇用することは可能ですか。

事務局：ご指摘はごもっともだと思います。平成23年度に学芸員を採用し、本格的な資料調査に着手しました。開館に向けて、資料がどのようなものであるかの確認を進めています。学芸員のマンパワーについては検討しています。認識もしています。データの入力やイベントの立会などを補助の人に頼むことも考えています。

委員長：基礎的な準備作業にも抜かりのないように配慮してください。次回の委員会はいつごろですか。

事務局：資料整理の進捗、支援組織の活動などについて報告を行いたいと思います。展示についてもご報告することがあるかと思います。3月頃に開催したいと考えています。

委員長：市長より発表された開館の延期について、委員会として認識できたと思います。基本的に委員会としての役割を忘れずに進めたいと思います。

以上